



# なぜか結果を出す人の理由

渡辺先生いつも有難うございます。

Voicy の心を育む語りのオーディオブックとおまけにどハマりしていて、久しぶりに VENTURE FORTH を読ませてもらおうとしてひらいたら、100号にまで積み重ねられていてびっくりしました！100号記念おめでとうございます。そしてお疲れ様でした。私はイチロー選手と同じ高校（年齢が違うので被っていたわけではありませんが…）でしたので、色々と逸話も耳にしていたのですが、特に印象に残っているのが中村監督（イメージはスラダンの安西監督みたいな方です笑）が彼（イチロー選手）は朝起きてから寝るまでにやる事が全て決まっていてそれを愚直にやり続ける、そしてそれらをうまく効率的に進められるように努力して、余裕がでてきたらその隙間に新しくやる事を追加して更にやり続ける。それを一緒に進めていくのが楽しかった…その毎日の積み重ねが歴史になっているんだよ！と日本史の授業で嬉しそうに話してくれた事です。中村監督とイチロー選手ふたりの中で人間の根本的欲求に配慮した温かく上質な関係が出来上がった事で Teaching から Coaching、Studying から Learning へシフトして朝カレー、毎回アンダーシャツを替える事、通信の写真の仕草などのスイッチを入れるルーティーンの土台になったのだろうと 30年近く前の記憶を懐かしみながら、いい原因を積み重ねて行く事の重要性を改めて感じました。いつも心地の良い学びの機会をくださる事に感謝しております。子供達が気分やモチベーションに関係なく自分のスイッチを自分で入れて主体的に学校生活を送ってもらえるように引き続きできるサポートをしていきます！

全てはみんなの笑顔の為に(^ ^)

Venture fourth の 100 号達成記念に、続々とお祝いの言葉やメッセージが届いています。

直接会ったときに伝えてくれる方や、フォームからのコメントやメールその他でのメッセージを送ってくださる方々など。

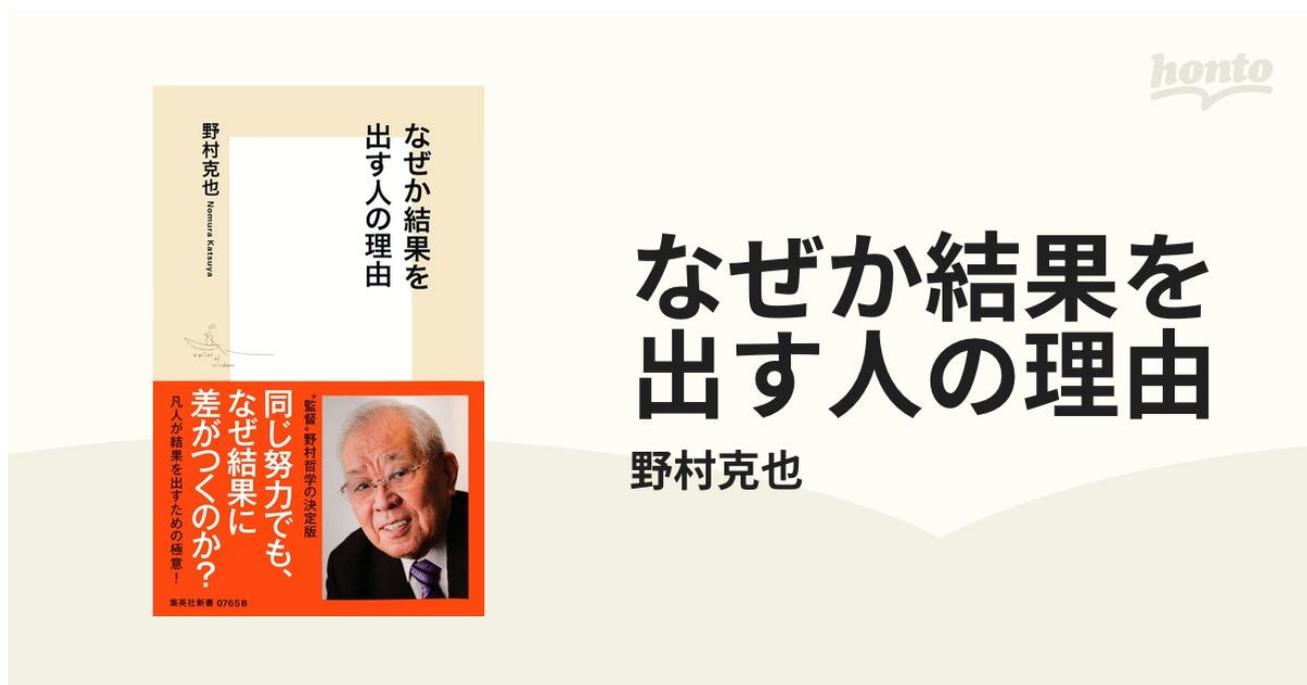
しかも、4 年生だけでなく他の学年のお家の方々からもお祝いのメッセージが届いており感激しています。

また、今回紹介したメッセージにもあるように、私が学校の仕事とは別に行っているラジオ放送（Voicy といいます）を聞いてくださっている方も最近とても多くなっているようで、恥ずかしい思いを感じつつこちらも大変うれしく思っているところです。

「続けたことだけが力になる」ということを、この Venture fourth でもたびたびお伝えしてきました。

「習慣化」や「ルーティン」の話題からイチロー選手の話題になっていますが、私は野球関連でいえば最も読み込んだのは野村監督の本です。

「野村ノート」や「弱者の兵法」などが特にお気に入りですが、習慣化について書かれたものならば以下の一冊がおすすめです。



ここには「努力」に関する目から鱗の情報がてんこ盛りです。

例えば、次の方程式はいろんなところで目にします。

「成果＝才能×努力」

エジソンが残した「天才とは、99%の努力と1%の才能」という名言は、今もいろんな影響を及ぼしています。

もちろん、この言葉が伝えようとしているのは「努力の大切さ」であることは間違いないのですが、次のように感じてしまう人がいる側面も間違いなくあるでしょう。

「努力が大切とはいえ、才能もやっぱり少しはいるんだよね」と。

その考え方に対して、野村監督は明確にNOと言い切っています。

著書の中で、野村監督は何度も書いていました。

「俺には、その才能がない」と。

でも、才能が無くたって成果は生み出せるということを、先の著書の中で何度も述べていたのです。

では、成果を生むための方程式とはいったい何なのか。

監督は、次のように書いています。

**「成果＝正しい努力×回数」**

つまり、成果が出ていないとするならば、原因は次の2つだと説いているわけです。

- 努力の仕方が間違っている
- 努力の回数が足りていない

具体的な例を挙げてみます。

例えば、百人一首で考えてみましょう。

4-1の子たちは、ほとんど全員が「初心者」からスタートしました。

導入したばかりのころは、露骨に嫌悪感を示す子もいました。

私にコテンパンに倒されてショックを受けている子もいました。

未経験のことなので、反応は様々あって当たり前です。

私が最初に教えたのは、「試合のルール」です。

その次に、「読み方」を教えました。

さらに、「覚え方」も教えました。

続けて、「合言葉」、「並べ方の工夫」、「試合での礼儀作法」、「取る際の手の動かし方」「カッコいい負け方」などを順番に教えていきました。

そして、力が磨かれてきたころに「トーナメント戦」や「異学年との交流戦」などを企画しました。

ちなみに1日に行う試合の時間は、わずか5分ほど。

ちょっとした隙間時間を使って、ほぼ毎日コツコツと練習を続けました。

そうして、半年ほどが経過しました。

現在では、どの子も例外なく桁違いに強くなりました。

「少し強くなった」「じっくり成長した」などというレベルではなく、段違い・桁違いに強くなりました。

どのくらいかということ、私が全力で戦っても倒せないレベルに既に到達している子たちが山ほどいます。

曲がりなりにも、私も20年ほど百人一首に取り組んできています。

少なからず腕に覚えはありますし、簡単に負けるつもりもありません。

でも、全力でやっても、その上をいくのです。

そのくらいの強さです。

これは、数々の地方で大会を経験してきたからこそわかりますが、みんなは県内でもすでに屈指のレベルに到達しています。

コロナでしばらく開催されていない百人一首大会ですが、もし今年それが復活したとしたら、たくさんの入賞者が4-1から出るでしょう。

これは、淡い期待などではなく、確信にも似た予想です。

わずか半年でここまでの成長をみんなが得られたのは、ひとえに先ほどの野村方程式の通りに努力を重ねてきたからです。

## 「成果＝正しい努力×回数」

これは、すべての勉強や仕事にいえることです。

「一所懸命頑張っているのに中々成果が出ない。」

もし、そのように感じるものがあったら、次の2つを確認してみましょう。

○それは本当に正しい努力なのか

○努力の数は本当に足りているのか

これらのことを、自分の「頭」や「体」と相談しながら、「どのように」「どのくらい」進めていけばいいかをつかむこと。

これはとても大切な学習です。(自己調整力と言います。)

自分にぴったりの「どのように」と「どのくらい」が掴めるように、これからも日々の学びを続けていきます。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

